

教師の力量向上を考える

- 京都における教職専門職連合大学院の試みが来春スタート -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1) 文部科学省は、教員養成の高度化つまりハイレベル化を目指し、来春からの19の教職専門職大学院の開設申請を、昨年末に許可しました。
- (2) その多くは、教員養成系の大学を母体とする単一大学単位の設立であります。しかし、京都では、「京都教育大学」が「基幹大学」となり、京都にある他の7つの大学が連合して教職専門職大学院をつくることになりました。
- (3) 京都教育大学の他の7つの大学とは、「京都産業大学」、「京都女子大学」、「同志社大学」、「同志社女子大学」、「仏教大学」、「立命館大学」、「龍谷大学」であります。
- (4) 以上8大学に京都府教育委員会、人口140余万の政令指定都市である京都市教育委員会が全面的に協力・支援。京都府内とりわけ京都市内にある小学校、中学校、高校がすべて付属校として参加する意気込みであるようです。
- (4) 2008年1月12日(土)13:00～16:30に、リーガロイヤルホテル京都において「連合大学院による教員養成高度化京都モデル(連合大学院GP)」シンポジウムがあり、参加の機会を得ました。本日の「開倫塾の時間」は、そこで考えたことをご報告させていただきます。

2. なぜ今「教職専門職大学院」なのか

- (1) 現代の日本教育の抱える問題は多岐にわたります。例えば、

OECDのPISA(15歳時の学力到達度調査)で、国際標準における高校1年生の学力調査が3年ごとに行われています。日本は、調査の始まった2000年は総合1位であったが、2003年と2006年は1位の座をフィンランドに譲り渡し、学力世界一の国ではなくなっていました。世界は知識社会を背景に「大学力(重視)時代」に入ったというのに、日本の学力レベルはどんどん下がっています。これでよいのかという危機感があります。数年後にはPISAの大学生版の学力調査も行われることが決定しましたが、日本は、今のままでは大学生レベルでよい成績が取れるとは考えられません。一体日本の学力はこのままでよいのかという危機感が強まって全国学力テストの実施や新学習指導要領の制定がなされたと考えられます。

理不尽とも思われるモンスターペアレンツに代表される「高学力」の「都市に住む」保護者の、極めて厳しい公立学校教員の教育内容に対する不満足度。

家庭や地域で解決しなければならない子どもの教育に関する問題の解決までを求められる現代の「学校」。

(2) 今までの4年制の「教職課程」における「教員養成」や、教育学部や文学部教育学科などの大学院専攻科や修士課程の教育では、以上のような現代的課題にはとても対応できない状況に至りました。

(3) 教員教育 (Teacher Education) の担い手にも課題があります。

「教職課程」の担当者に問題がありました。今までの「教職課程」学部や大学院の担当者は、研究者を中心とした先生が多く、「理論」面には強かったが教職経験のない人が大半であったからです。

学校で教えたことのない人が学校の先生を養成するのは、ピアノが弾けない人がピアノを教えるのと同様であるといえます。

(4) 最大の問題は、学校で何を教えるのか「教えるべき内容」が、教員養成課程で教育されていないということです。教員を志望する学生が現場で教えるのは「数週間の教育実習」のみで、学校で教える教科書を隅から隅まで勉強するのは「学校の先生になってから」というのが実情。児童・生徒の教科書の内容をすべて頭の中に入れ、その教科書の指導書を隅から隅まで読んでから、4月の新学期を迎える新任の先生は極めてまれです。

3. おわりに

(1) 多くの国では、「教えるべき内容」を学部の3～4年間に身に付け、また、「教授法」や実務に即した内容を、学校での実務教育を多く取り入れながら大学院修士課程で身に付ける「先生教育 (Teacher Education)」がなされています。多くの国では、医師や正看護師、薬剤師、公認会計士、弁護士、検事、判事などと同様に、教員も専門職大学院を修了した人でないと教員として採用しないようです。校長には博士課程修了者が多い国も増えています。

(2) 例えば、OECDのPISA調査で2003年、2006年ともに総合1位となったフィンランドでは、3年間の大学課程卒業後に2年間の修士課程を修了しないと、教員になれません。多くの校長は、教職に就きながら30歳過ぎから大学院博士課程に進学し、博士課程を修了しています。

(3) ようやく日本でも、教員には教職専門職大学院での教育が必要であるという動きが来年から始まります。京都での連合教員大学院の試みは、その中でも極めて特色のあるものといえます。